

# 釧路湿原川レンジャー News

2011 Vol.2

## 第1回「釧路湿原川レンジャー学習会」が開催されました

平成23年6月22日(水)に、18名が参加して今年度最初の「第1回釧路湿原川レンジャー学習会」を開催しました。

今回は「植樹・ポット苗づくり」と「自然林からの種子採取・苗床づくり」を行い、「自然再生事業(茅沼地区旧川復元)の見学」を行いました。

### 「花咲かじいさんプロジェクト」に参加

岩保木水門周辺で、釧路開発建設部が釧路町立遠矢小学校と協働で実施している「花咲かじいさんプロジェクト」※1に今年も参加して、過去に植樹した樹木の生育観察や植樹・ポット苗づくりを行いました。

※1「花咲かじいさんプロジェクト」の説明は、別紙の「花咲かじいさんプロジェクト」に掲載されています。また、下記URLにも掲載しておりますので、そちらも併せてご覧下さい。

<http://www.ks.hkd.mlit.go.jp/kasen/nframes/12.html>



位置図

### ●樹木の生育観察

過去に「釧路湿原川レンジャー」の皆さんが植樹した箇所を中心に樹木の生育について見学しました。

皆さんで観察したところ、エゾシカなどの食害、生育不良及び枯死している樹木が多く見られました。また、植樹した年度によっては生育が悪い箇所もありましたが、厳しい自然環境の中でゆっくりと樹木が生育していることがわかりました。

なお、参加者からは、植えた場所の杭が折れたり、杭の番号が消えたりして、せっかく植えた場所がわからなくなっているの、何とかして欲しいなどの意見がありました。

### ●植樹作業

作業は2名の班に分かれ、1サークルに13ポットずつ、計11サークルの植樹を写真の①～④の手順で行いました。

なお、植樹したポット苗は計143ポット(28種類)で、釧路川流域や釧路湿原の自然林から採取して種子から育てたケヤマハンノキ・ヤチダモ・ハシドイなどに加え、「釧路湿原川レンジャー」の佐々木さんが大事に育てたミズナラ・ハルニレ・オニグルミも一緒に植樹しました。



過去の植樹の生育状況を確認



佐々木さんが育てたポット苗



①最初に植樹する苗選び



②サークル内に植樹



③植えた苗に水撒き



④最後に樹木の樹高調査

### ●ポット苗づくり

作業は、種子から育てたヤチダモ・ハルニレ・エゾヤマハギなど1～4年経過した苗床から、小さな苗を3～5本の束にして移植し、約150個のポット苗を作りました。

最後に周辺のゴミ拾いをして、午前の部が終了しました。



ポットに移植



ゴミを拾う参加者



作ったポット苗と記念撮影



●種子採取・苗床づくり

午後からは、茅沼に移動して自然林であるハルニレとタチヤナギの種子を採取しました。皆さん、枝を折らないように注意しながら、種子を採取していました。

なお、タチヤナギなどのヤナギ類の果実はさく果（写真参照）といって、熟すと開いて綿毛に包まれたとても小さな種子を風によって散布します。ヤナギ類の種子を見たことのない参加者の方は、種子の小ささに大変驚いていました。

その後、ハルニレ・タチヤナギの苗床を作成し、来年、再来年に向けてポットへ移植できる大きさまで育てて、使用する予定です。



茅沼地区旧川復元区間の位置図



種子を採取



ハルニレの種子



タチヤナギの果穂（さく果）



開いたさく果



苗床を作成



ハルニレ タチヤナギ

完成した苗床（6月22日）



6月26日に発芽したタチヤナギ



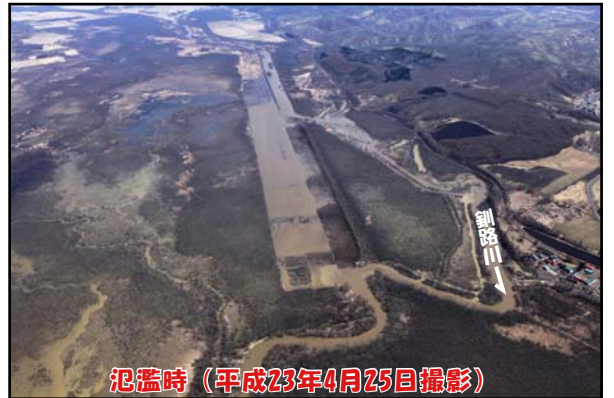
7月6日に発芽したハルニレ

自然再生事業（茅沼地区旧川復元）の見学

茅沼地区では、旧川復元事業の経過を空中写真を用いて事務局から説明を受けました。

この事業は、河川の蛇行復元により、氾濫頻度を増やし、これまで湿原中心部へ流れ込んでいた土砂が軽減したり、湿原性植物が回復したりすることで湿原が再生することを期待しています。なお、説明を聞いた参加者からは、「河川が氾濫することは湿原にとって良いことですね」や「今後の自然の回復力に期待したい」などの意見がありました。

また、今回の見学中にボートで川下りをしている小学生の団体に遭遇しました。小学生は皆、気持ち良さそうにボートを漕いで、私たちに向かって元気に手を振ってくれました。



氾濫時（平成23年4月25日撮影）



通常時（平成23年5月19日撮影）



説明を聞く参加者



川下りを楽しむ小学生